

公共施設フォーラム 2020

～必要な施設サービスを次世代に引き継ぐために～

10月17日(土)13時	西公民館	10月31日(土)10時	上公民館
10月17日(土)15時30分	渋沢公民館	10月31日(土)14時	広畑ふれあいプラザ
10月18日(日)10時	本町公民館	11月 1日(日)10時	大根公民館
10月18日(日)14時	北公民館	11月 1日(日)14時	鶴巻公民館
10月24日(土)10時	堀川公民館	11月 7日(土)10時	南公民館
10月24日(土)14時	東公民館	11月 7日(土)14時	南が丘公民館



秦野市政策部行政経営課

公共施設フォーラムって何？

- ▶ このフォーラムは、平成23(2011)年に策定した「秦野市公共施設再配置計画」の概要をあらためてみなさんにお知らせし、将来の公共施設の複合化などについて、色々なご意見をいただくために、市内の全公民館と広畑ふれあいプラザで開催しています。
- ▶ 現在、秦野市の公共施設(学校、公民館などのハコモノ)は、およそ7割が築30年を経過し、多くの施設で老朽化対策が必要です。
- ▶ 平成24(2012)年に発生した中央自動車道笹子トンネルの天井崩落事故や、平成30(2018)年にイタリアで発生した高架橋落下など、公共施設は適切に維持管理しなければ、施設を利用しているみなさんに被害が及ぶことにもなります。
- ▶ 財政状況の悪化と施設の老朽化に対応し、公共施設を良好な状態で次世代に引き継ぐため、また、現在及び数年先の近い将来に施設を使うことになるみなさんの「使い勝手」も考えて、次の計画を作りたいと思っています。
- ▶ もちろん、いただいたご意見全てを反映できるわけではありませんが、実際に公共施設を利用されているみなさまの意見や思いを直接伺いたく、このフォーラムを実施しました。

思ったことや感じたことを
何でもお知らせください！

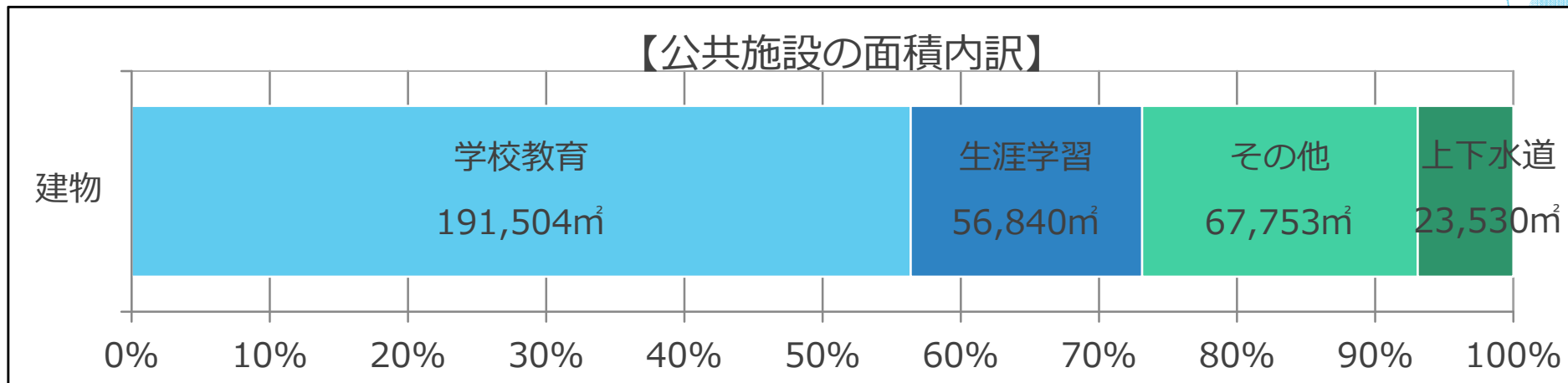


再配置推進イメージキャラクター
「丹沢つなぐ君」

公共施設ってどのくらいあるの？

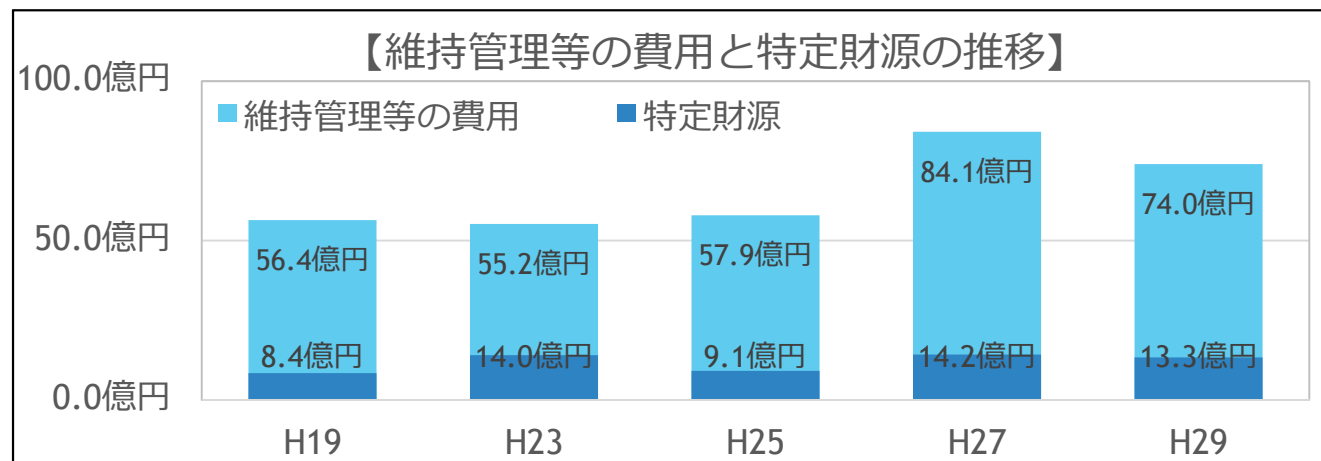
- ▶ 身近な施設では、小中学校、幼稚園・こども園や公民館、カルチャーパークには文化会館や図書館、総合体育館のほか、テニスコートなどの屋外スポーツ施設もあります。
- ▶ 全ての公共施設は目的をもって建てられ、その施設を必要としている人もたくさんいます。
- ▶ 平成29(2017)年度末時点で、秦野市の公共施設はおよそ**500施設**、建物の総面積は**約34万m²**（東京ドーム7.3個分）となっています。

【公共施設の面積内訳】



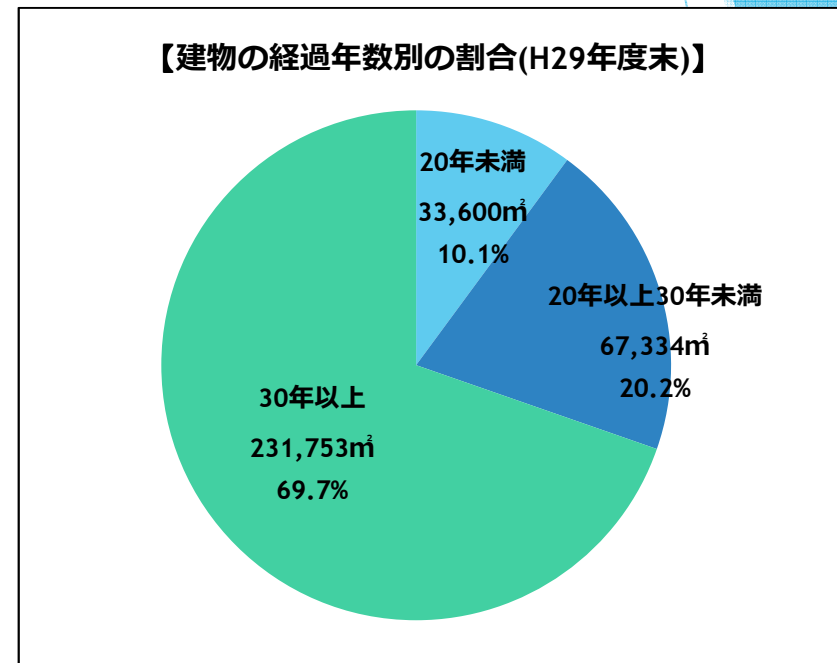
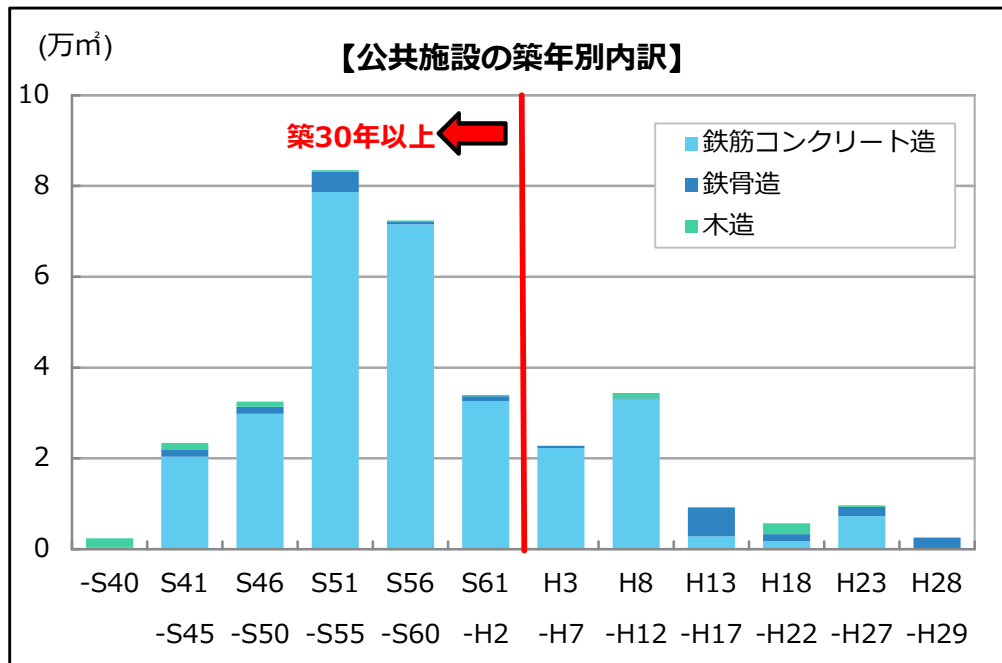
どのくらい費用がかかっているの？

- ▶ 公共施設の維持管理等に係る費用は、職員の人件費や光熱水費、事務用紙やトイレトペーパーなどの消耗品費のほか、破損箇所の修繕費用など、いろいろな種類があります。
- ▶ 平成29(2017)年度に公共施設の維持管理等に要した費用は、約73億9,553万円（企業会計である上下水道局を除きます）でした。
- ▶ 維持管理等の費用の財源は、特定財源といわれる使用料や国県補助金などが約13億3,425万円（約18%）で、残りの約60億6,128万円（約82%）は一般財源（＝市税、地方交付税など）です。
- ▶ 公共施設に係る一般財源の負担は、市民一人当たりになると約36,500円になります。



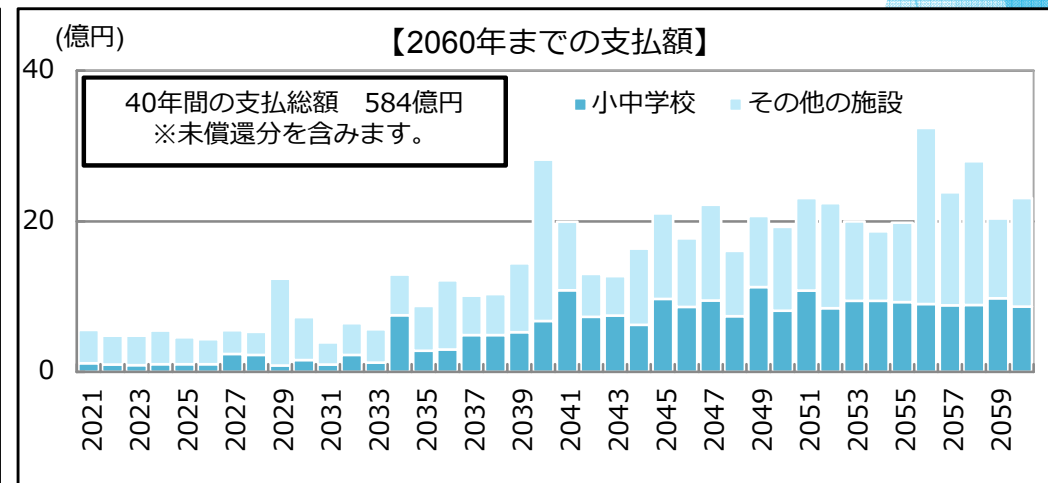
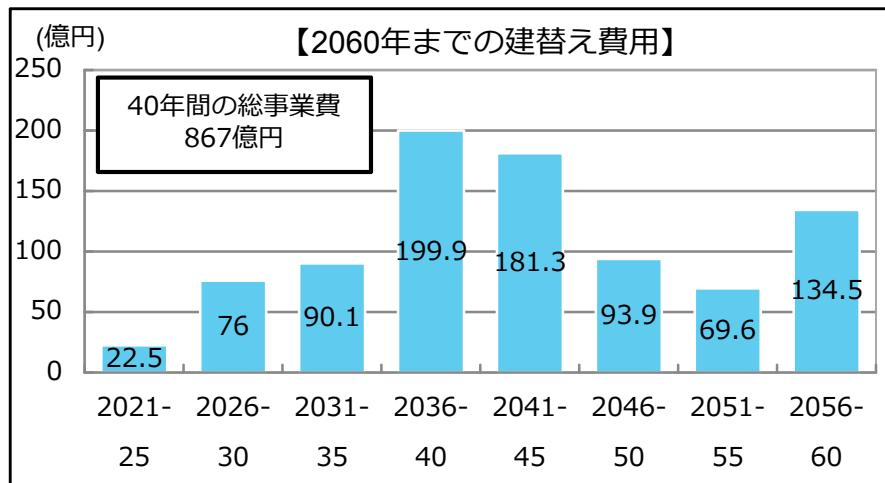
公共施設の現状は？

- ▶ 秦野市の公共施設は、昭和50年代に集中して整備されています。
- ▶ 建築時期が集中しているため、一斉に老朽化します。



建替えるにはいくら必要？

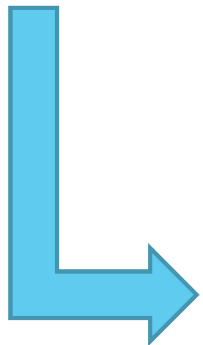
- ▶ 毎年多くの費用をかけて維持管理している公共施設ですが、鉄筋コンクリート造りの施設の寿命は、一般的に60年といわれています。
- ▶ 寿命が来た施設について、小中学校は児童生徒数の減少に合わせて規模を縮小し、そのほかの施設を現状の面積のまま建替えるとして、2060年までの40年間に要する建替え費用を試算したところ、総事業費は**867億円**となりました。また、この事業費の支払いに必要となる費用は、同じ期間で**546億円**、これに現在支払い中の金額を加えると合計**584億円**となります。
- ▶ さらに、現在の支払額を元に、今後支払いに充てることができる費用を試算したところ、40年間で**228億円**となり、**356億円**の不足が生じる結果となりました。



※試算のため、金額等が変更となる場合があります。

公共施設を将来にわたって 維持するために

- ▶ 建替え費用の試算では、356億円の不足が生じる結果となりました。
- ▶ 人口減少・少子・超高齢化の影響で、税収は減少し、社会保障費の支出は増加することが予測されます。
- ▶ 財政状況が悪化する中、現在の施設をそのままの面積で維持していくことは困難です。

- 
- ▶ 将来的には**公共施設の床面積を削減**する必要があります。
 - ▶ 床面積の削減は、**廃止となる施設がある一方で、建替え面積を減らすことで、事業費の削減効果も期待**できます。
 - ▶ 全体の床面積が減少すれば、年間およそ74億円もかかっていた維持管理費も削減でき、**この削減分を事業費の不足に充てられます**。
 - ▶ 廃止する施設の機能は、建替える施設に集約し、**面積を削減しながら、必要とされる機能を残します**。

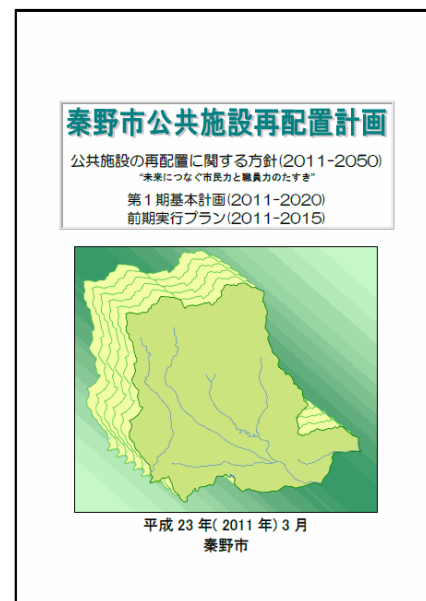


こうして、「**秦野市公共施設再配置計画**」が誕生しました。

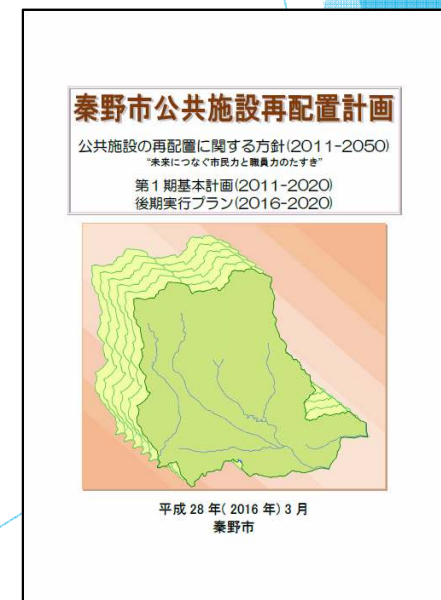
公共施設再配置計画

- ▶ 平成23(2011)年に「第1期基本計画」を策定しました。
- ▶ 床面積の削減目標などは、2050年までの40年間を見据えた試算としてしています。
- ▶ 計画期間は2020年までの10年間で、5年ずつに分けた「実行プラン」として策定しました。
- ▶ 現在は、平成28(2016)年から令和2(2020)年度までの「後期実行プラン」を推進中です。

第1期基本計画(2011-20)
前期実行プラン(2011-15)



【現在推進中】
第1期基本計画(2011-20)
後期実行プラン(2015-20)



どんな計画なの①

—再配置に関する方針 “未来につなぐ市民力と職員力のたすき”—より

〈方針1〉【基本方針】

- ①原則として、新規の公共施設(ハコモノ)は建設しない。建設する場合は、更新予定施設の更新を同面積(コスト)だけ取りやめる。
- ②現在ある公共施設(ハコモノ)の更新は、できる限り機能を維持する方策を講じながら、優先順位を付けたうえで大幅に圧縮する。
- ③優先度の低い公共施設(ハコモノ)は、すべて統廃合の対象とし、跡地は賃貸、売却によって、優先する施設整備のために充てる。
- ④公共施設(ハコモノ)は、一元的なマネジメントを行う。

〈方針2〉施設更新の優先度

優先度	施設の機能
最優先	義務教育
	子育て支援
	行政事務スペース
優先	財源の裏づけを得たうえで、アンケート結果などの客観的評価に基づき決定
その他	上記以外

〈方針3〉削減の数値目標

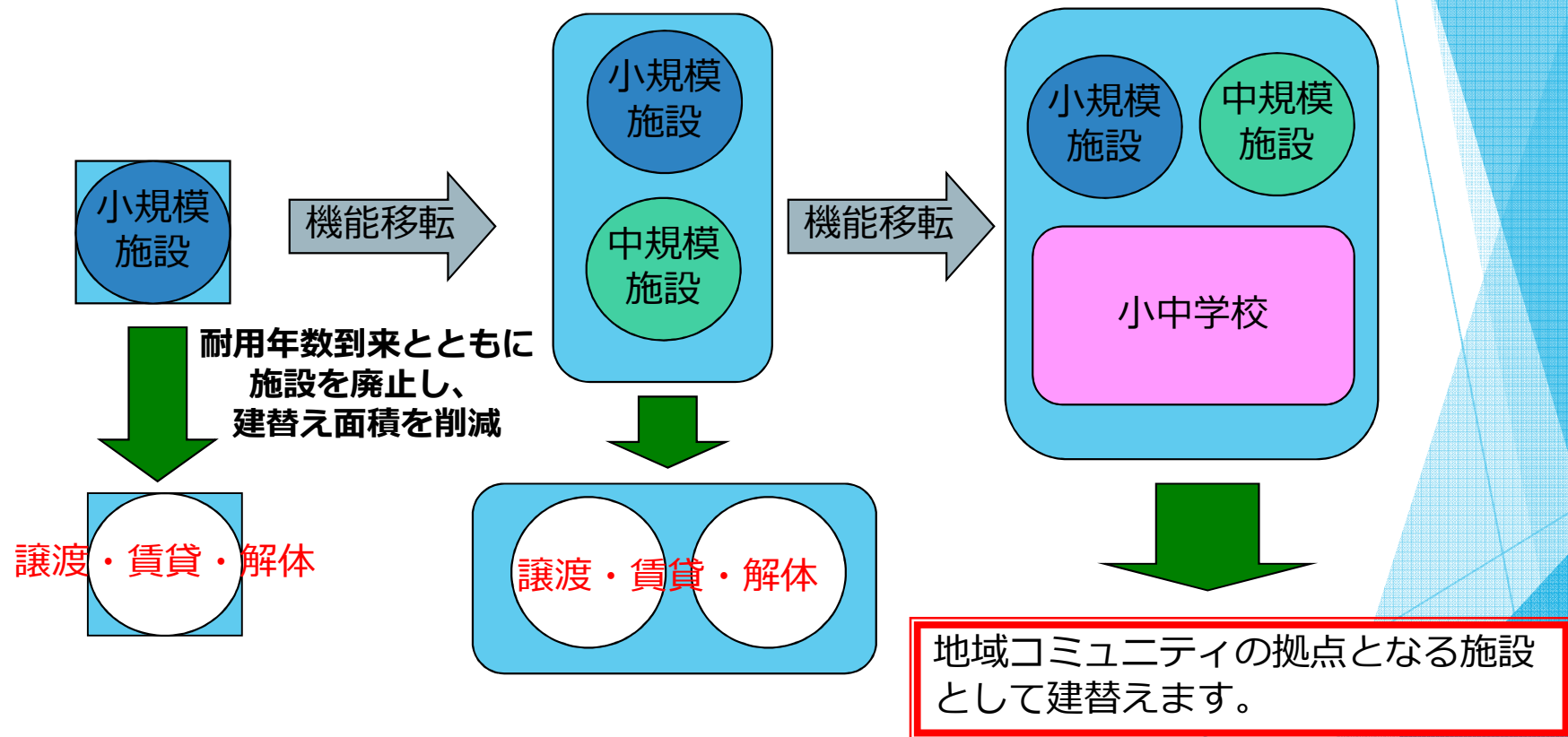
		2011-20	2021-30	2031-40	2041-50	合計
学校	面積	△900㎡	1,400㎡	15,200㎡	26,500㎡	42,200㎡
	割合	△0.5%	0.9%	9.4%	16.5%	26.2%
その他	面積	2,200㎡	5,100㎡	13,300㎡	9,600㎡	30,200㎡
	割合	3.2%	7.3%	19.0%	13.7%	43.2%
合計	面積	1,300㎡	6,500㎡	28,500㎡	36,100㎡	72,400㎡
	割合	0.6%	2.8%	12.3%	15.6%	31.3%

〈方針4〉計画を進めるための5つの視点

ハコと機能の分離、公民連携の推進、施設の多目的利用、効率的・効果的な管理運営、スケルトン方式での建設

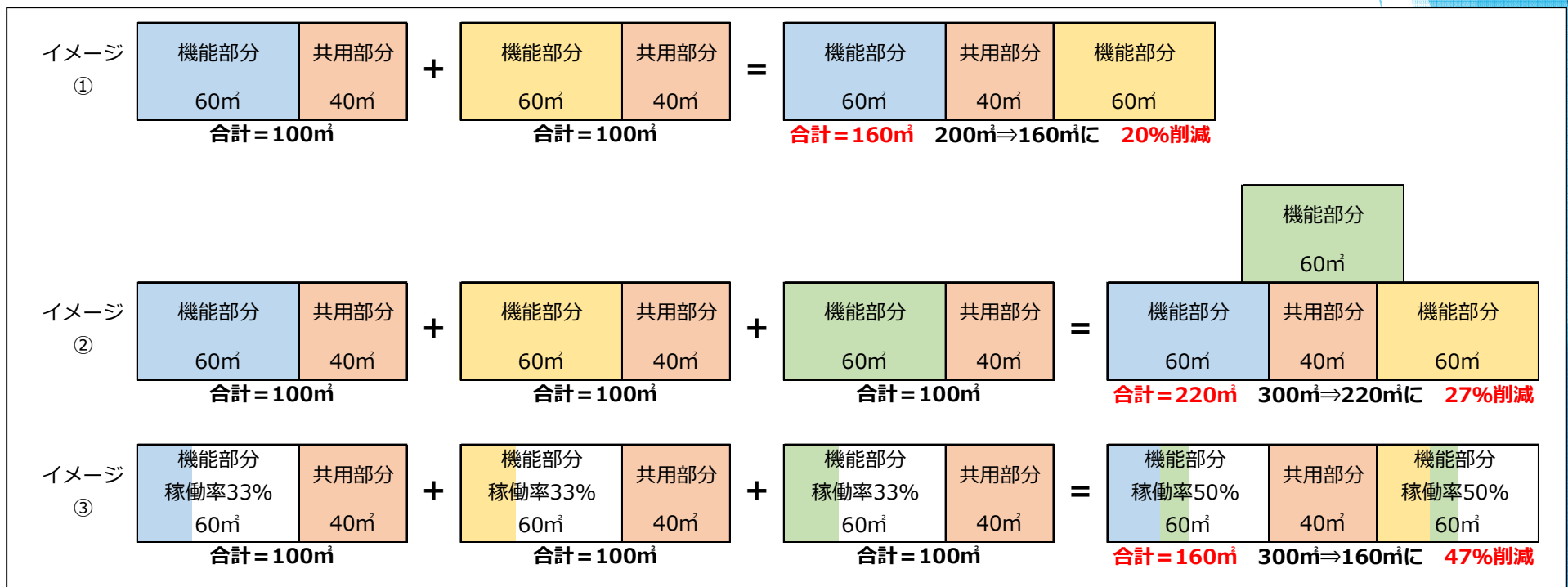
どんな計画なの？②

- ▶ 計画では、施設の機能を移転し、複合化していくことで、小中学校を中心とした地域コミュニティの拠点が出来上がっていくイメージを示しています。



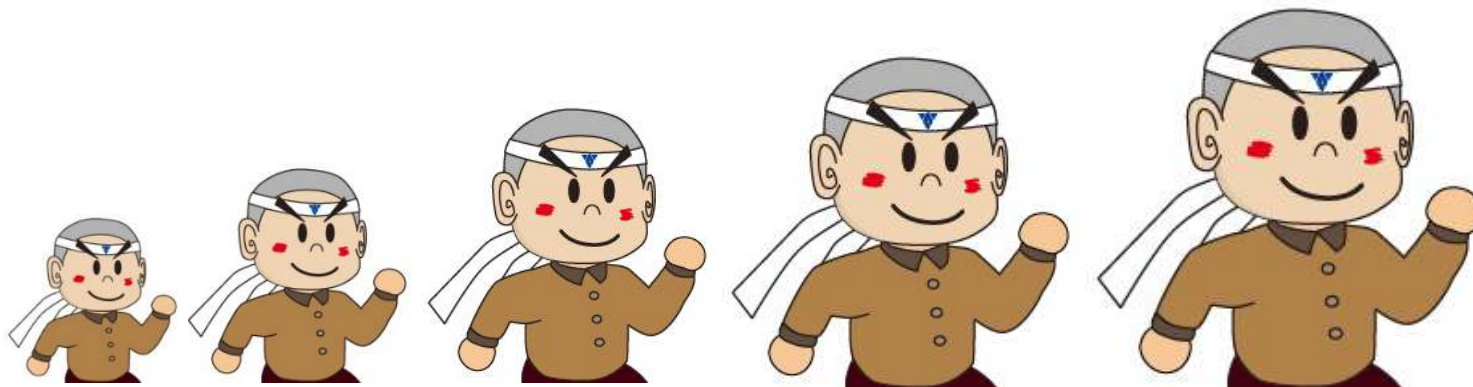
どんな計画なの？③

- ▶ 複合化をイメージしたものが次の図になります。
- ▶ 建物の共用部分(玄関、廊下、トイレなど)は床面積の4割程度といわれています。
- ▶ 複合化により共用部分が削減され、必要な機能部分を少ない面積の中で残すことが可能となります。



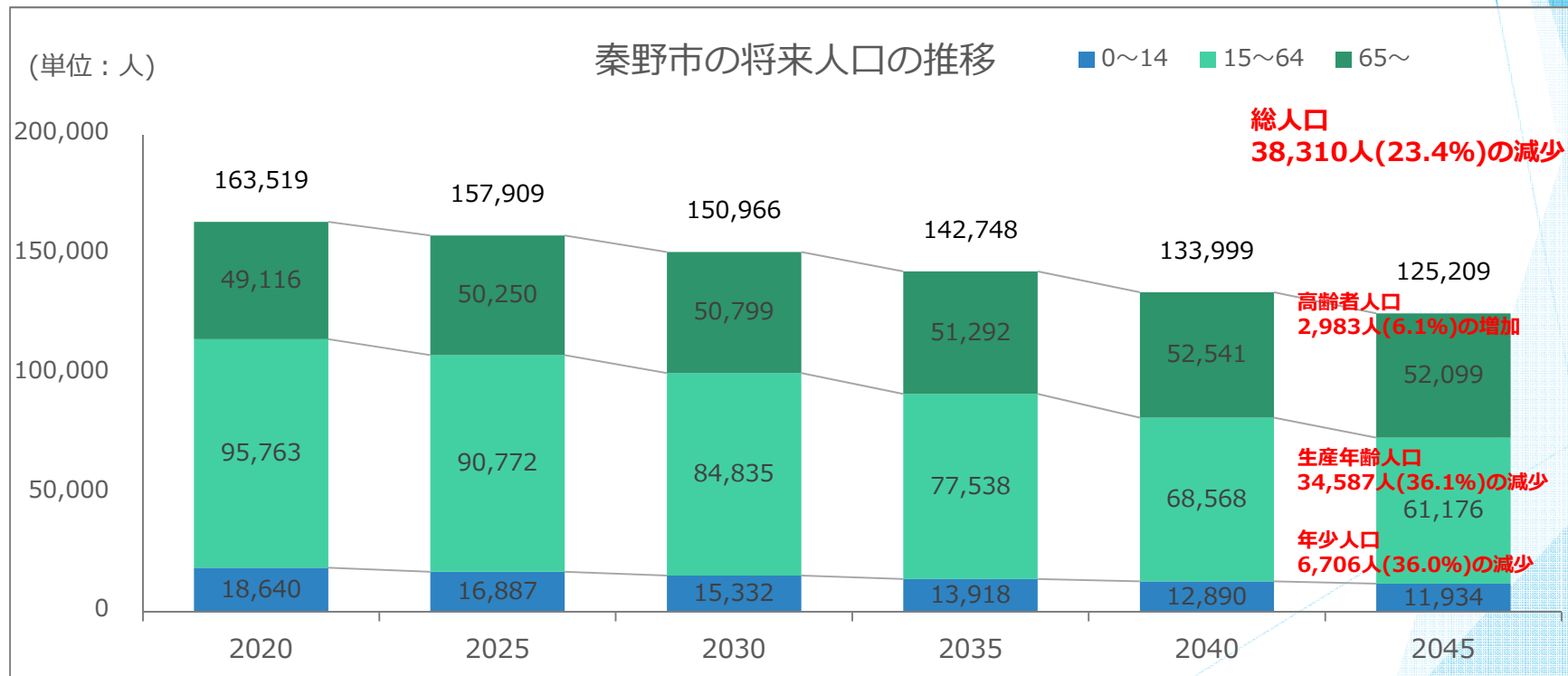
将来の公共施設の姿は？

- ▶ 将来は、小中学校が地域コミュニティの拠点となるよう、公共施設再配置計画に基づき、長期的な視点で整備を進めます。
- ▶ 機能を残しながら床面積を減らし、維持管理費の削減額を建て替え費用の不足に充てる、このことが「公共施設の再配置」です。
- ▶ 施設の建替えにあたっては、民間事業者の知恵や力を活用した公民連携【PPP(Public Private Partnership)】による手法も検討しながら、効率的な管理運営と市民サービスの向上を目指します。
- ▶ これらを踏まえて、公共施設再配置計画に定める「施設更新の優先度」や現在の施設の状況などを考慮し、また、このフォーラムでいただくご意見も参考にしながら、2060年までの複合化等の方向性を定めることにしています。



将来の人口の推移は？

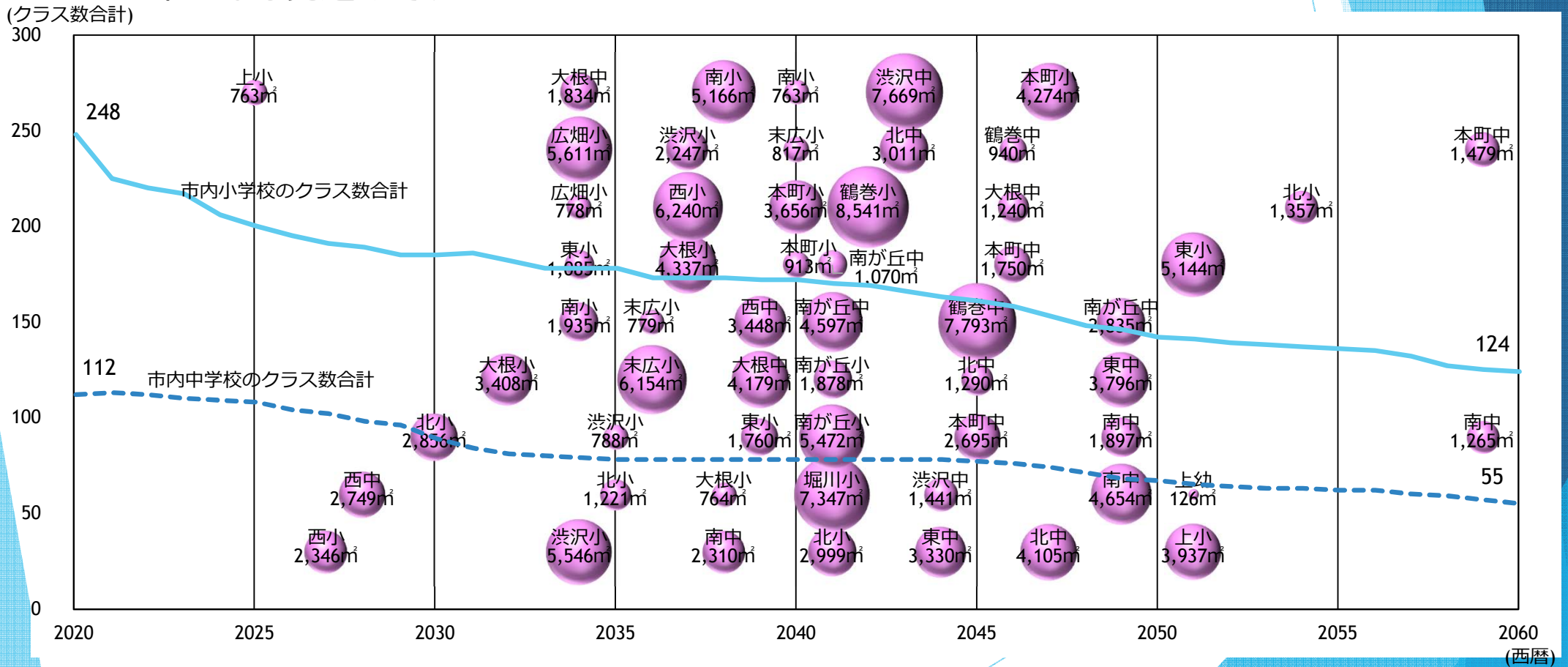
- ▶ 2045年までの秦野市の人口の推移は次のとおりです。
- ▶ 総人口は38,310人、23.4%の減少ですが、年少人口の減少割合は総人口よりも高い36.0%です。
- ▶ 納税の中心となる生産年齢人口は36.1%の減少と、年少人口を上回る減少割合となっています。



出典：「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)
※2015年データは未記載

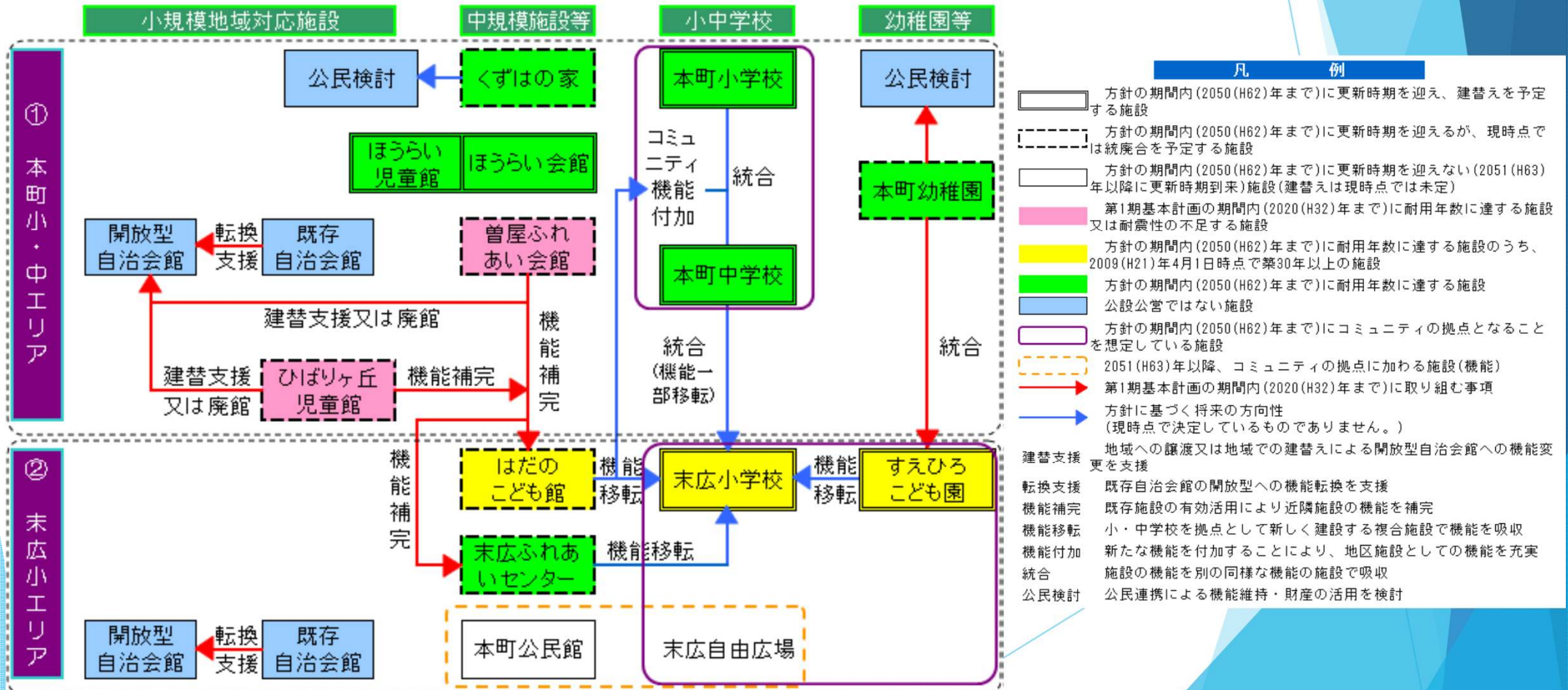
小中学校の建替え時期と合計クラス数の推移

- ▶ 公共施設の建替え予定年度から、小中学校だけを抽出しました。
- ▶ 現在の公共施設再配置計画では、小中学校が地域の拠点施設となることが想定されていました。
- ▶ 合計クラス数は児童生徒数の減少に合わせて減少し、2060年には現在の半分以下となる見込みです。



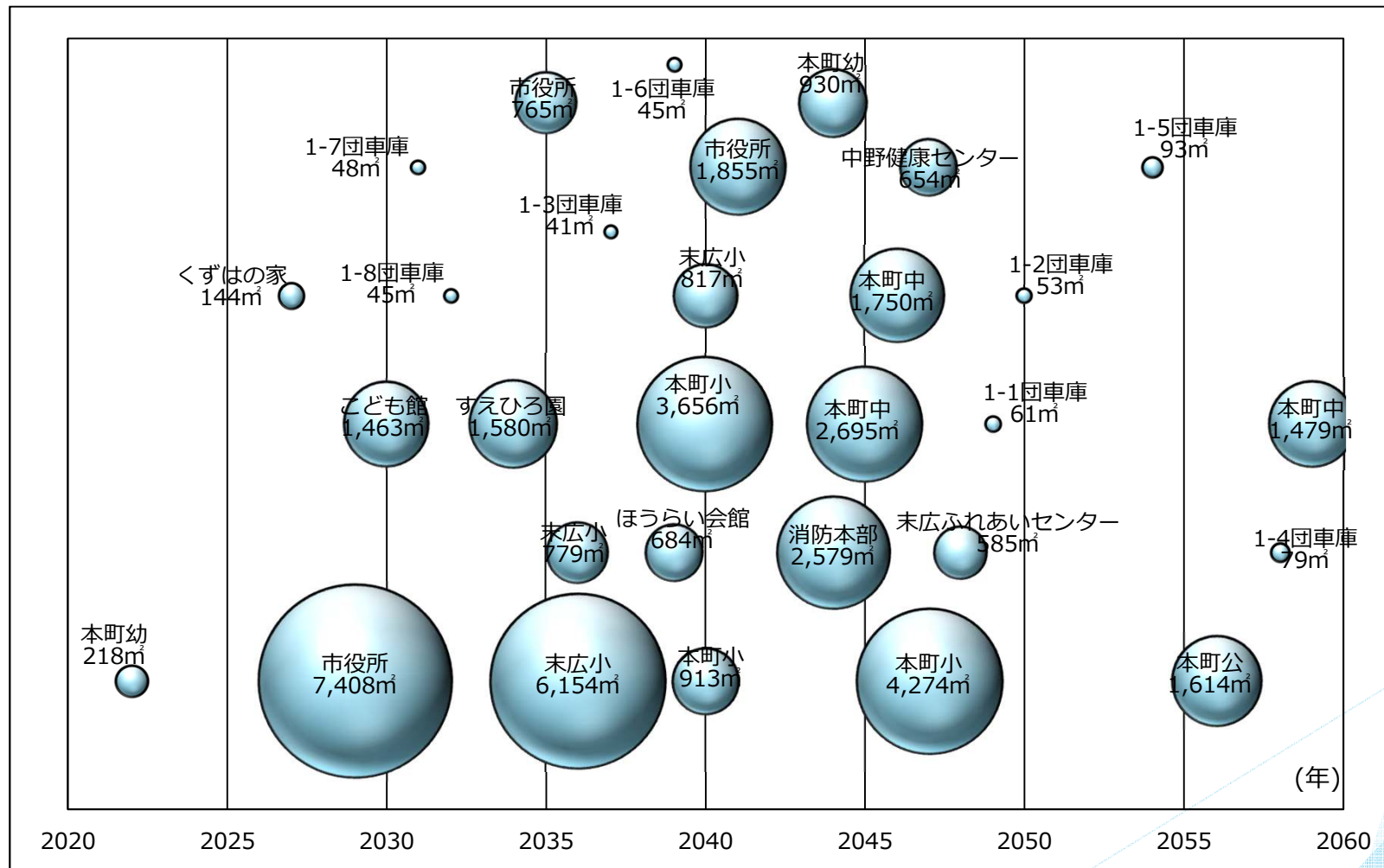
本町中学校区① -10年前に策定したイメージから-

- ▶ 現在の再配置計画で示している集約化のイメージを見てみましょう。
- ▶ 一体化した本町小学校と本町中学校、子育て機能を複合化した末広小学校がそれぞれ地域の拠点として想定されていました。



本町中学校区②

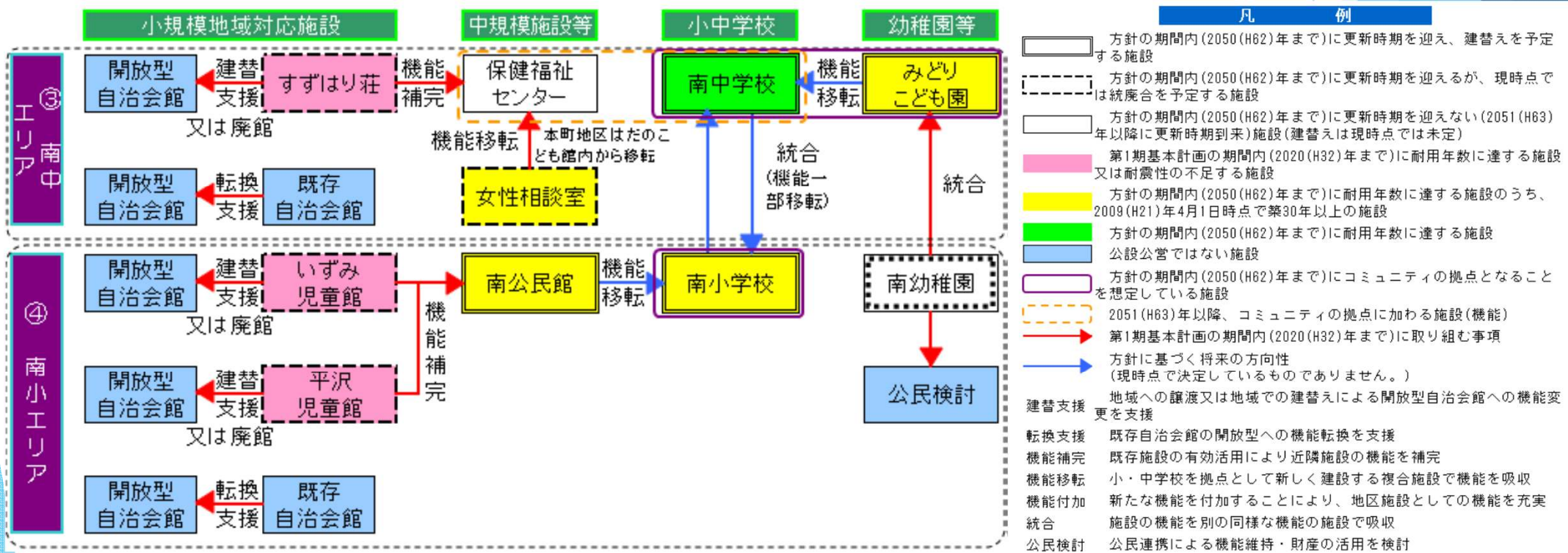
- ▶ 本町中学校区の主な公共施設の建替え予定年度を見てみましょう。
- ▶ 学校の建替えが2040年代に集中しています。



円の大きさは、建物の大きさを、グラフ内の文字は、施設名と現在の延べ床面積を示しています。また、木造30年、鉄骨造45年、鉄筋コンクリート造60年で建替えと仮定し、すでに建替え時期を迎えている建物は、すべてを2020年に示しました。

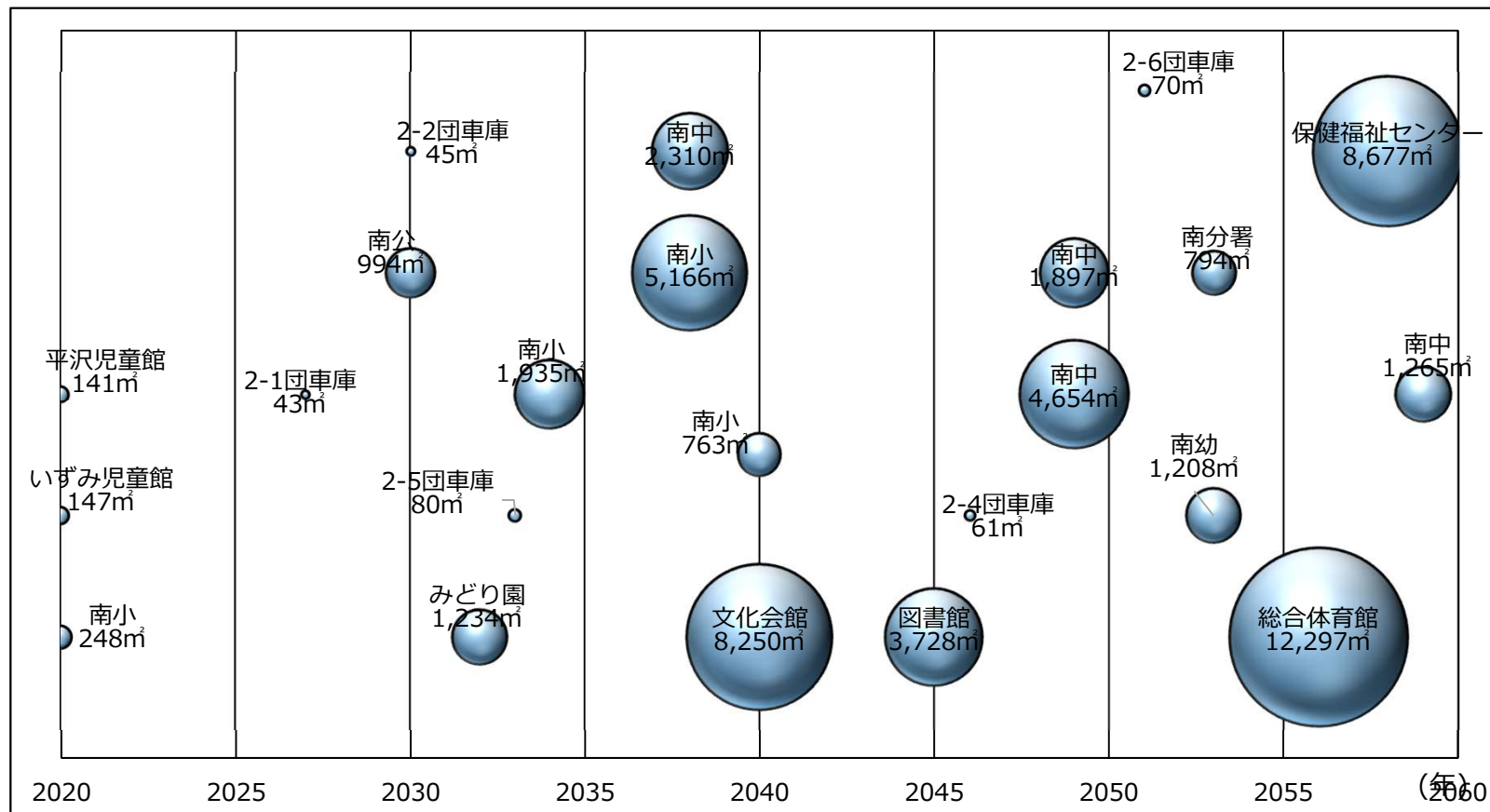
南中学校区① -10年前に策定したイメージから-

- ▶ 現在の再配置計画で示している集約化のイメージを見てみましょう。
- ▶ 子育て機能を複合化した南中学校、公民館機能と複合化した南小学校がそれぞれ地域の拠点として想定されていました。
- ▶ 点在している小規模地域施設は中規模施設での機能補完や開放型自治会館への移行が想定されていました。



南中学校区②

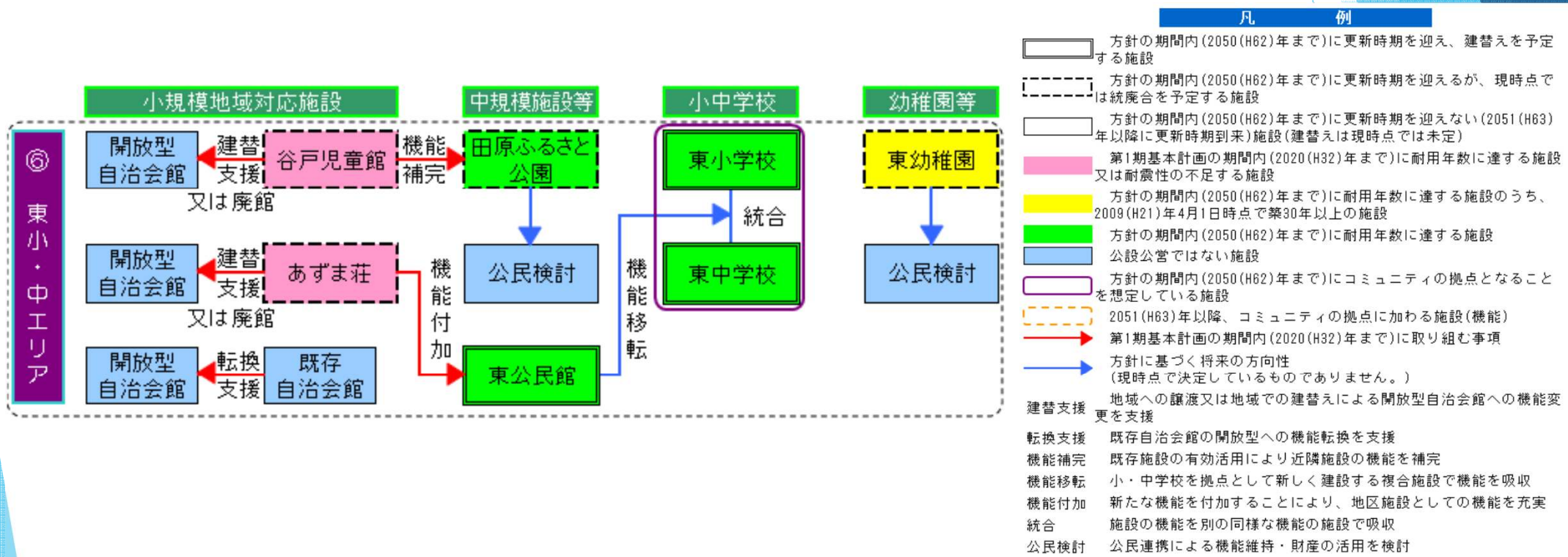
- ▶ 南中学校区の主な公共施設の建替え予定年度を見てみましょう。
- ▶ 学校の建替えは2030年代後半と2040年代後半に分散しています。
- ▶ 南公民館、文化会館、図書館、総合体育館、保健福祉センターなども順次建替え時期を迎えます。



円の大きさは、建物の大きさを、グラフ内の文字は、施設名と現在の延べ床面積を示しています。また、木造30年、鉄骨造45年、鉄筋コンクリート造60年で建替えと仮定し、すでに建替え時期を迎えている建物は、すべてを2020年に示しました。

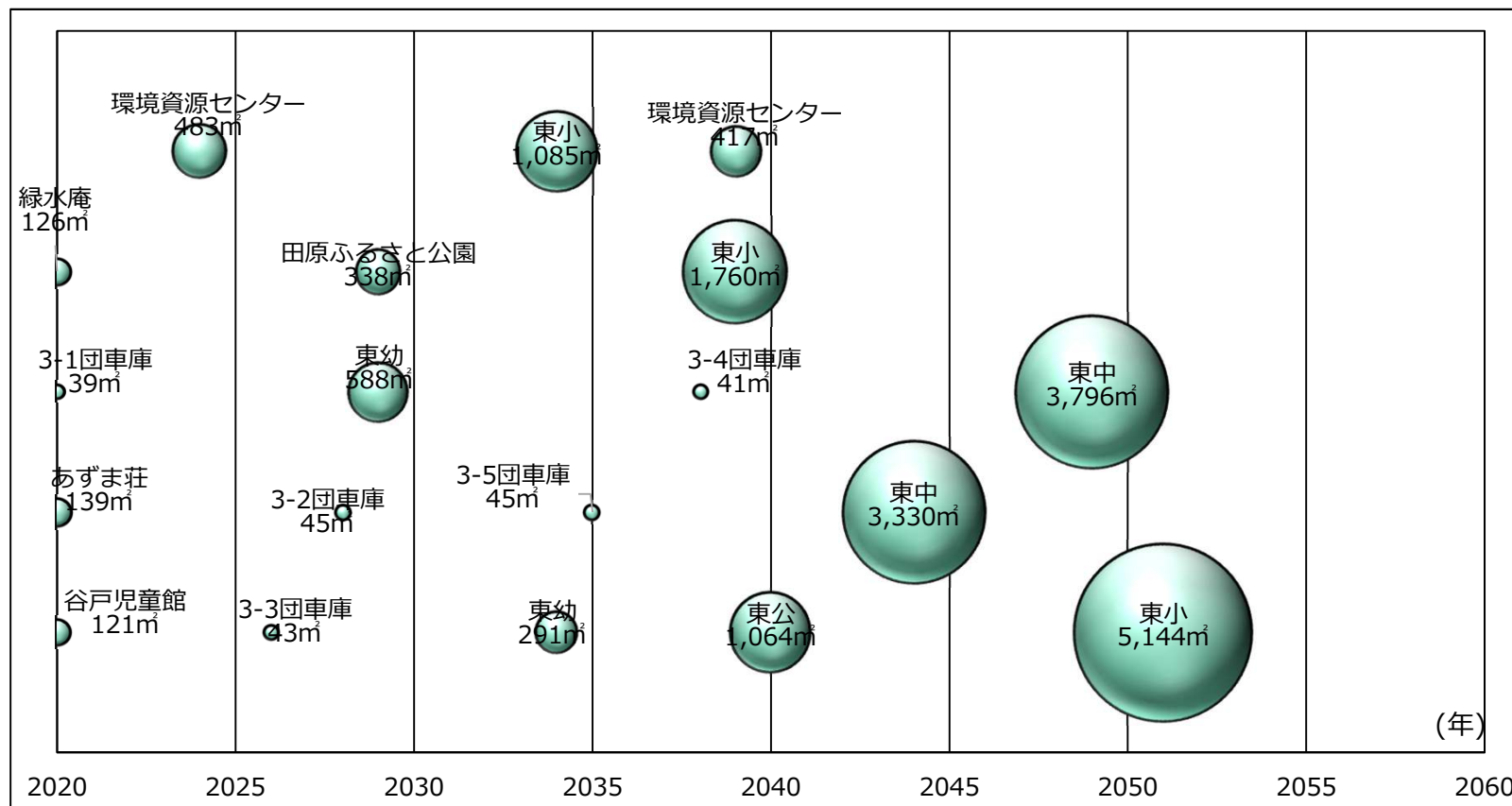
東中学校区① -10年前に策定したイメージから-

- ▶ 現在の再配置計画で示している集約化のイメージを見てみましょう。
- ▶ 公民館の機能を複合化し、一体化した小中学校が地域の拠点として想定されていました。
- ▶ 点在している小規模地域施設は中規模施設での機能補完や開放型自治会館への移行が想定されていました。



東中学校区②

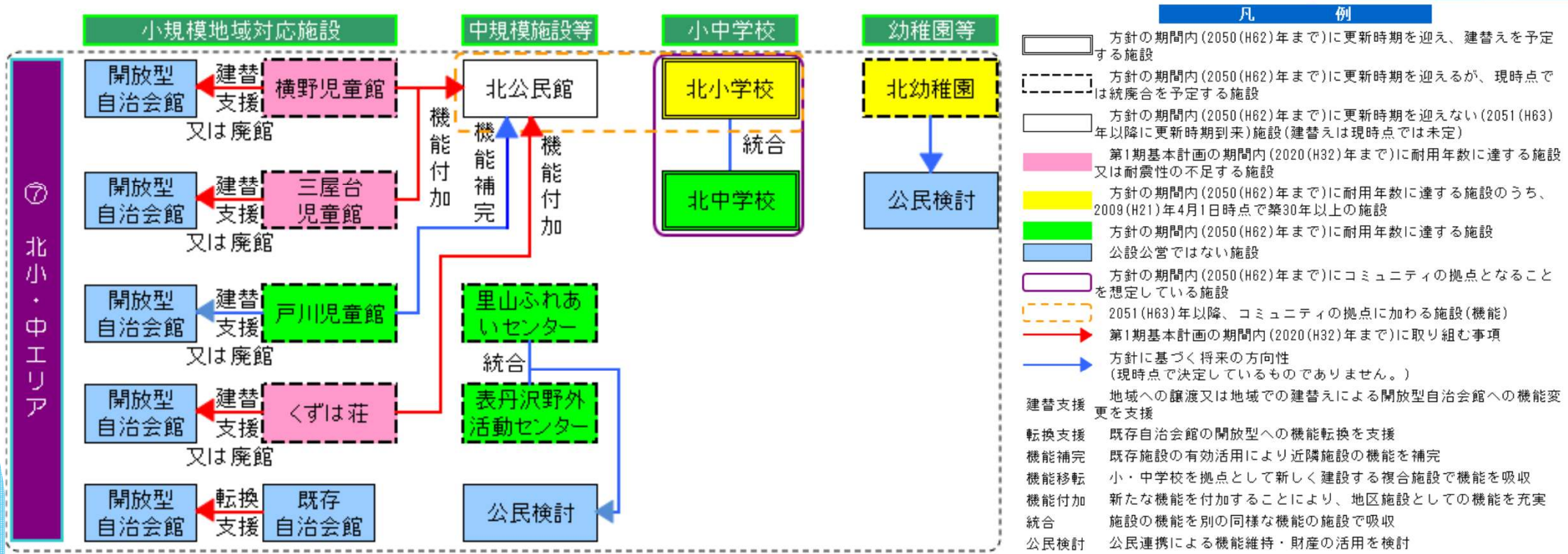
- ▶ 東中学校区の主な公共施設の建替え予定年度を見てみましょう。
- ▶ 学校の建替え時期は、2040年代半ばから2050年代前半に集中しています。
- ▶ 公民館の建替え時期は2040年と、小学校の建替え時期と重なります。



円の大きさは、建物の大きさを、グラフ内の文字は、施設名と現在の延べ床面積を示しています。また、木造30年、鉄骨造45年、鉄筋コンクリート造60年で建替えと仮定し、すでに建替え時期を迎えている建物は、すべてを2020年に示しました。

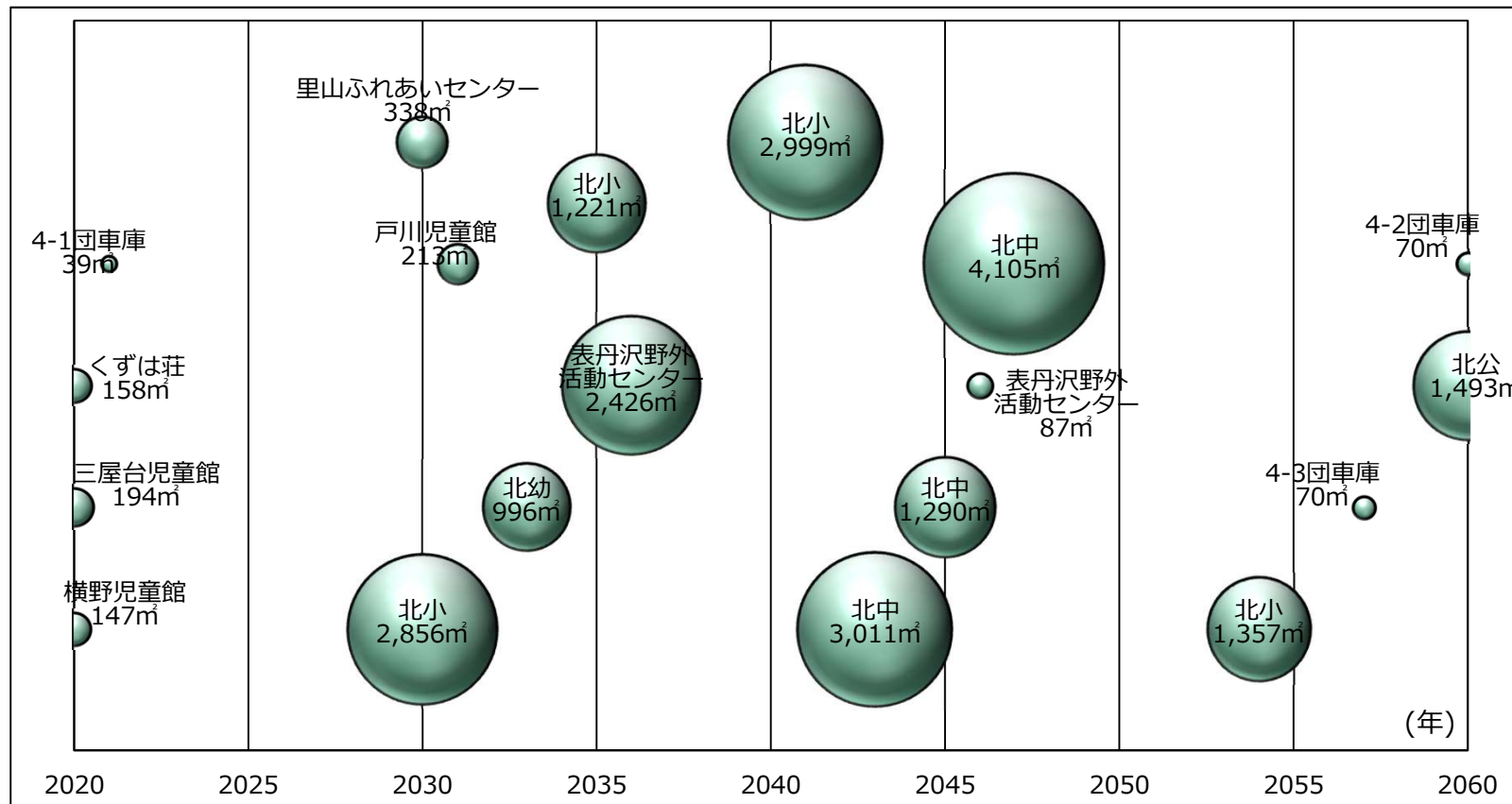
北中学校区① -10年前に策定したイメージから-

- ▶ 現在の再配置計画で示している集約化のイメージを見てみましょう。
- ▶ 一体化した小中学校と公民館が地域の拠点として想定されていました。
- ▶ 点在している小規模地域施設は中規模施設での機能補完や開放型自治会館への移行が想定されていました。



北中学校区②

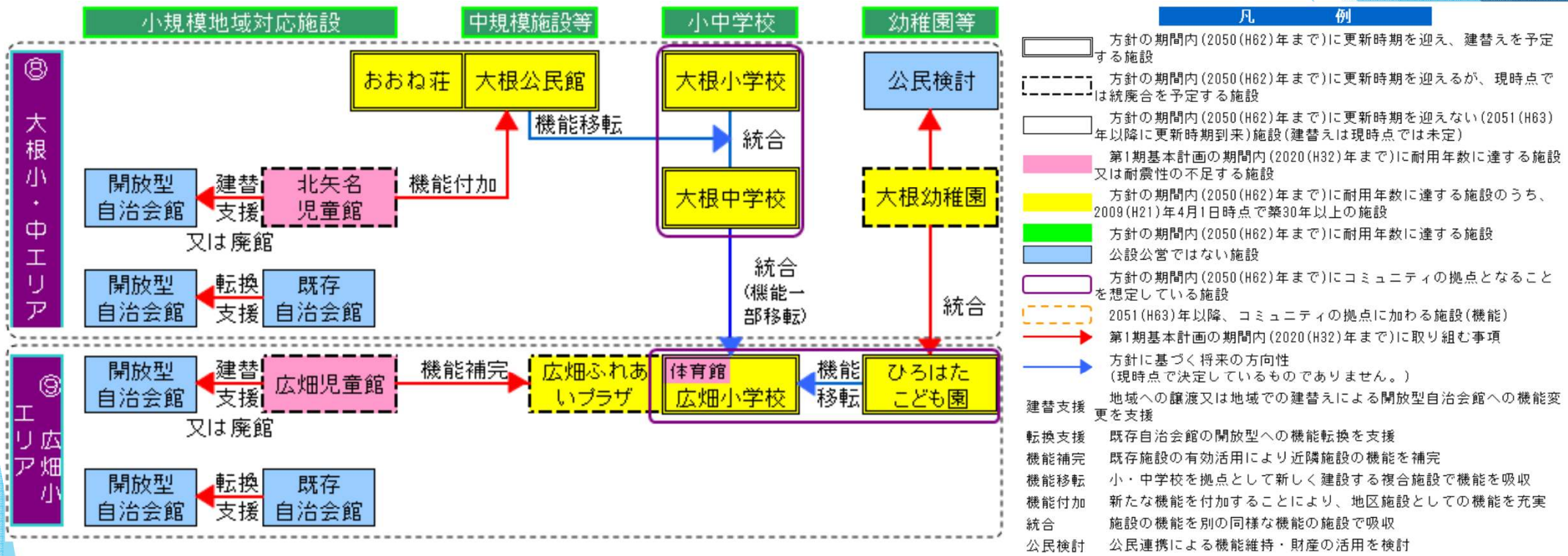
- ▶ 北中学校区の主な公共施設の建替え予定年度を見てみましょう。
- ▶ 学校の建替え時期は2040年代に集中しています。
- ▶ 公民館の建替え時期は2060年ですが、木造施設の里山ふれあいセンターや表丹沢野外活動センターの建替え時期が迫っています。



円の大きさは、建物の大きさを、グラフ内の文字は、施設名と現在の延べ床面積を示しています。また、木造30年、鉄骨造45年、鉄筋コンクリート造60年で建替えと仮定し、すでに建替え時期を迎えている建物は、すべてを2020年に示しました。

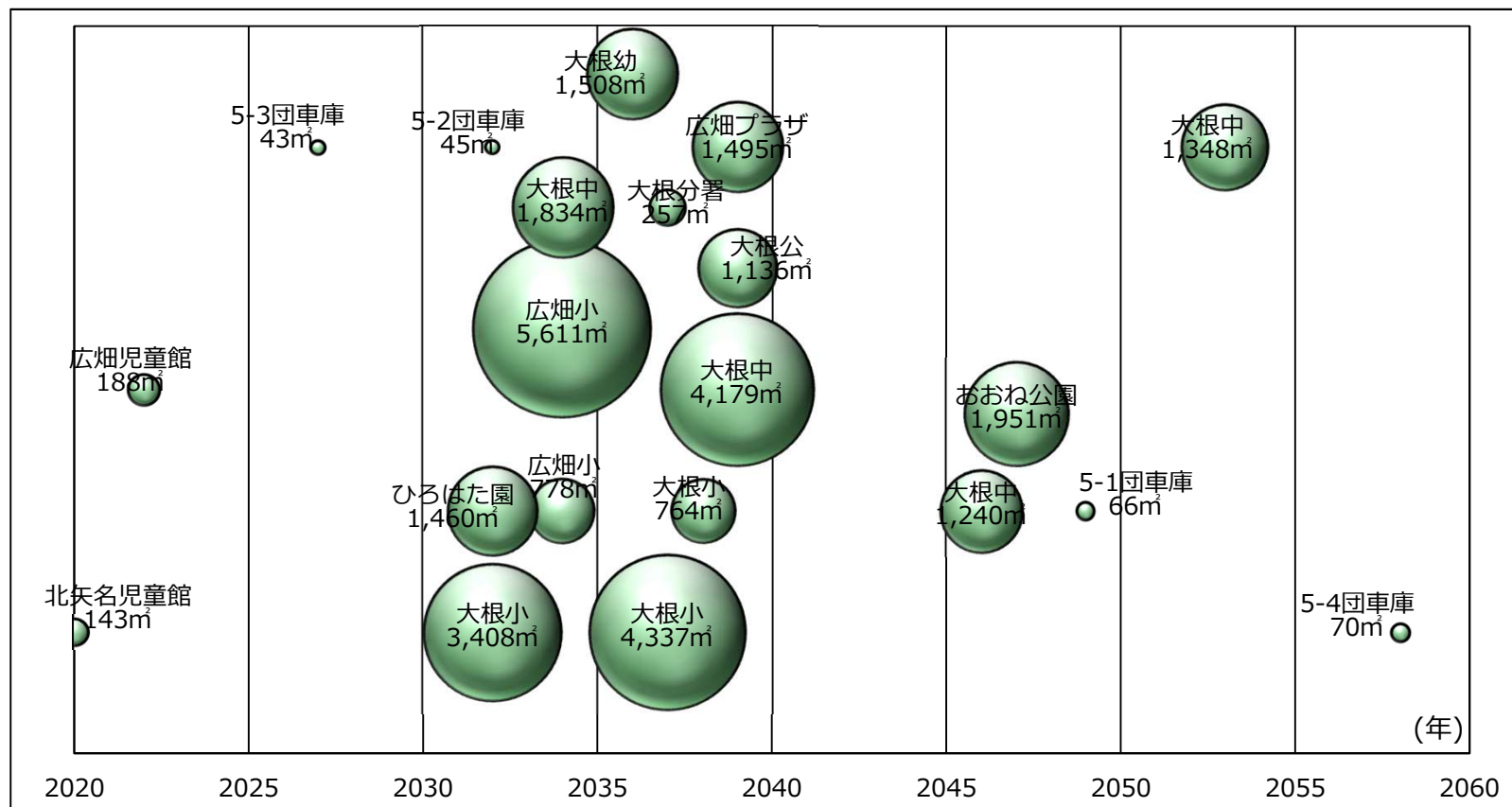
大根中学校区① -10年前に策定したイメージから-

- ▶ 現在の再配置計画で示している集約化のイメージを見てみましょう。
- ▶ 一体化した大根小中学校と子育て機能と複合化した広畑小学校が地域の拠点として想定されていました。
- ▶ 点在している小規模地域施設は中規模施設での機能補完や開放型自治会館への移行が想定されていました。



大根中学校区②

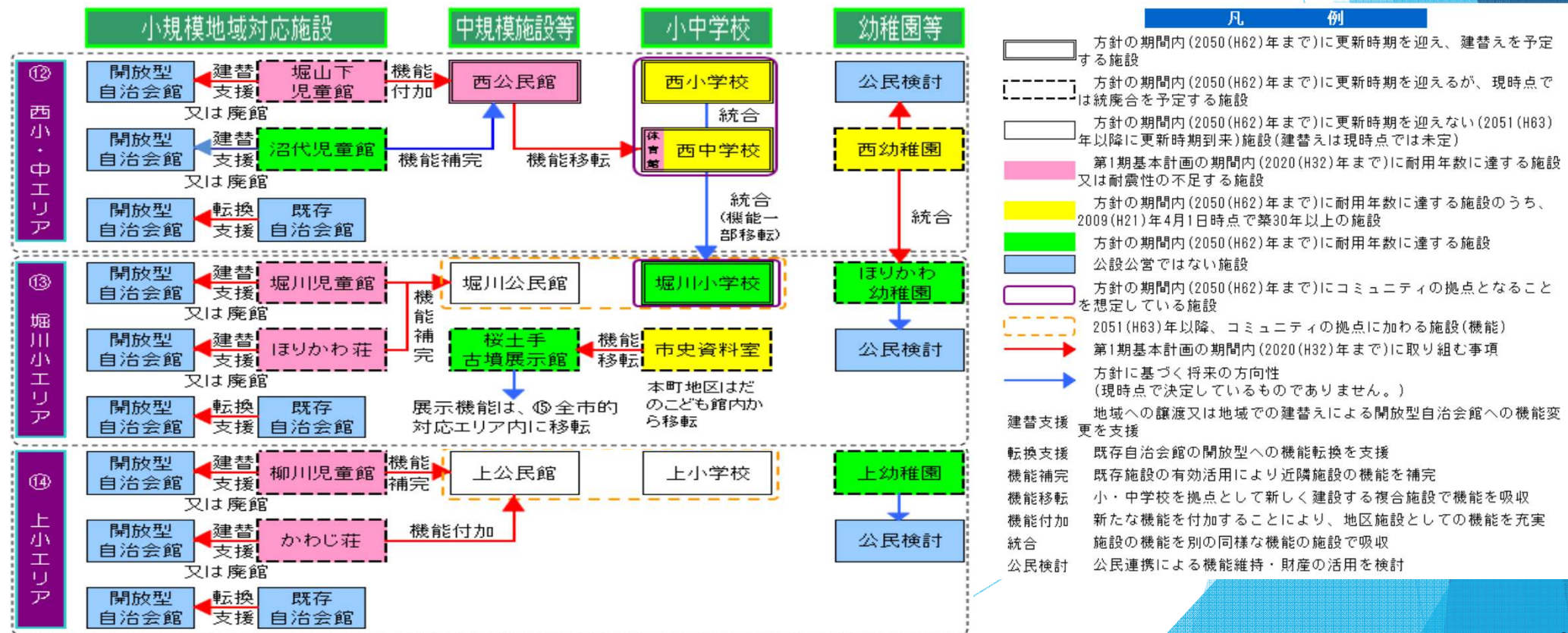
- ▶ 大根中学校区の主な公共施設の建替え予定年度を見てみましょう。
- ▶ ほとんどの施設の建替え時期が2030年代に集中しています。
- ▶ おおね公園の建替え時期は、他の施設よりも遅い2047年となっています。



円の大きさは、建物の大きさを、グラフ内の文字は、施設名と現在の延べ床面積を示しています。また、木造30年、鉄骨造45年、鉄筋コンクリート造60年で建替えと仮定し、すでに建替え時期を迎えている建物は、すべてを2020年に示しました。

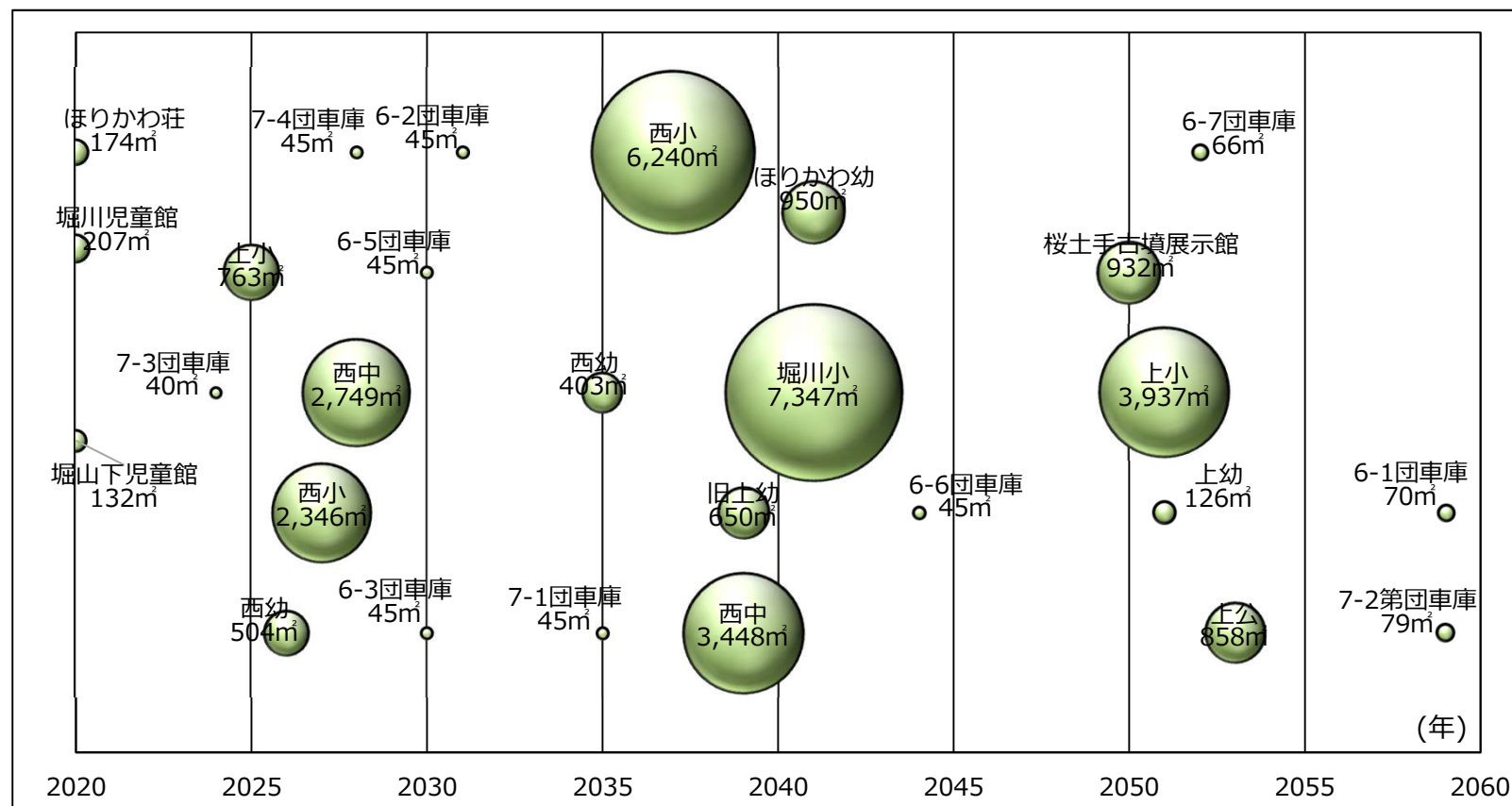
西中学校区① -10年前に策定したイメージから-

- ▶ 現在の再配置計画で示している集約化のイメージを見てみましょう。
- ▶ 一体化した西小中学校と堀川小学校及び堀川公民館が地域の拠点として想定されていました。
- ▶ 点在している小規模地域施設は中規模施設での機能補完や開放型自治会館への移行が想定されていました。



西中学校区②

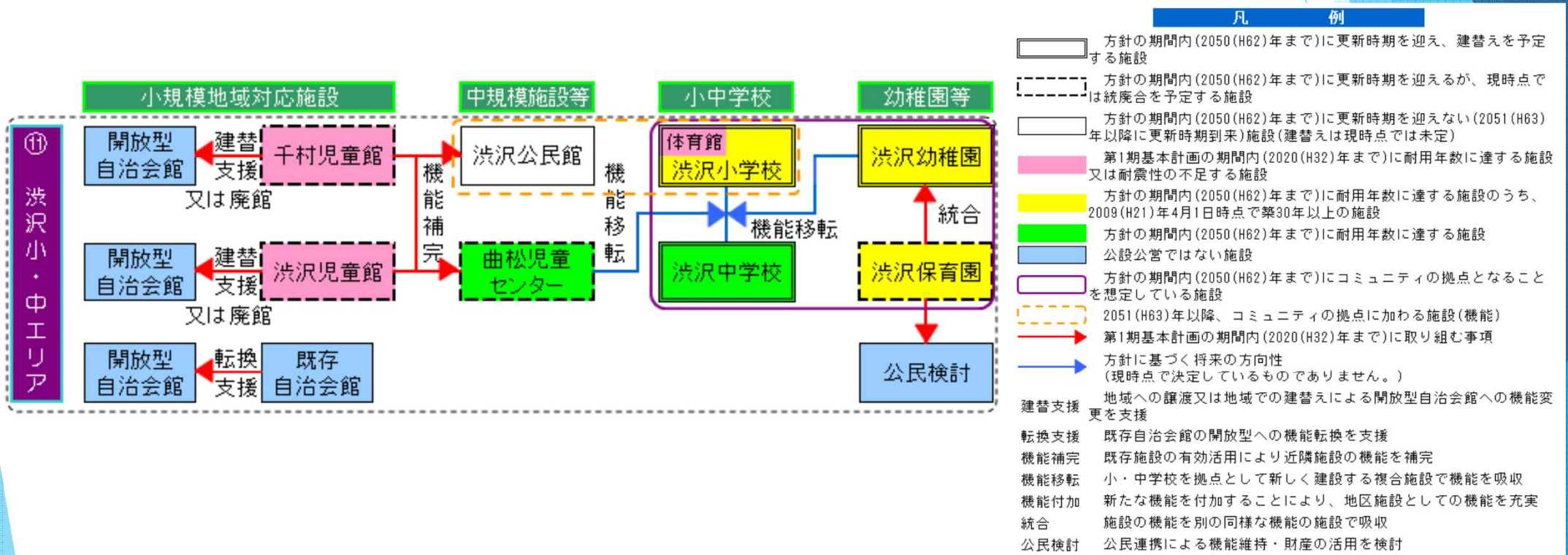
- ▶ 西中学校区の主な公共施設の建替え予定年度を見てみましょう。
- ▶ 学校の建替え時期は2020年代後半と2040年前後に分散していますが、後半の建替えのほうが床面積が大きくなっています。
- ▶ 2020年代後半の建替え時期が迫っています。



円の大きさは、建物の大きさを、グラフ内の文字は、施設名と現在の延べ床面積を示しています。また、木造30年、鉄骨造45年、鉄筋コンクリート造60年で建替えと仮定し、すでに建替え時期を迎えている建物は、すべてを2020年に示しました。

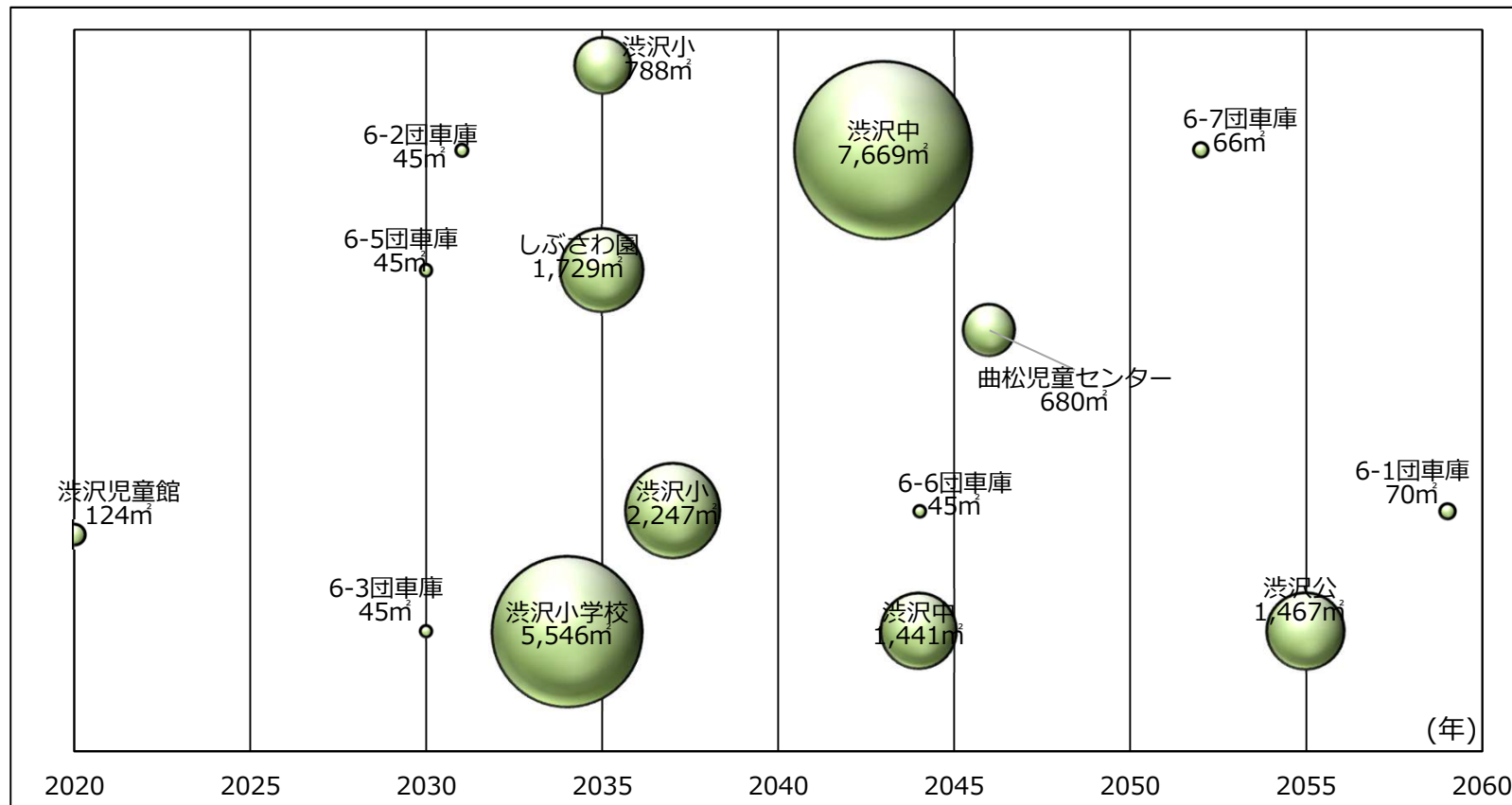
渋沢中学校区① -10年前に策定したイメージから-

- ▶ 現在の再配置計画で示している集約化のイメージを見てみましょう。
- ▶ 一体化した小中学校に渋沢公民館と子育て機能を加えた施設が地域の拠点として想定されていました。
- ▶ 点在している小規模地域施設は中規模施設での機能補完や開放型自治会館への移行が想定されていました。



渋沢中学校区②

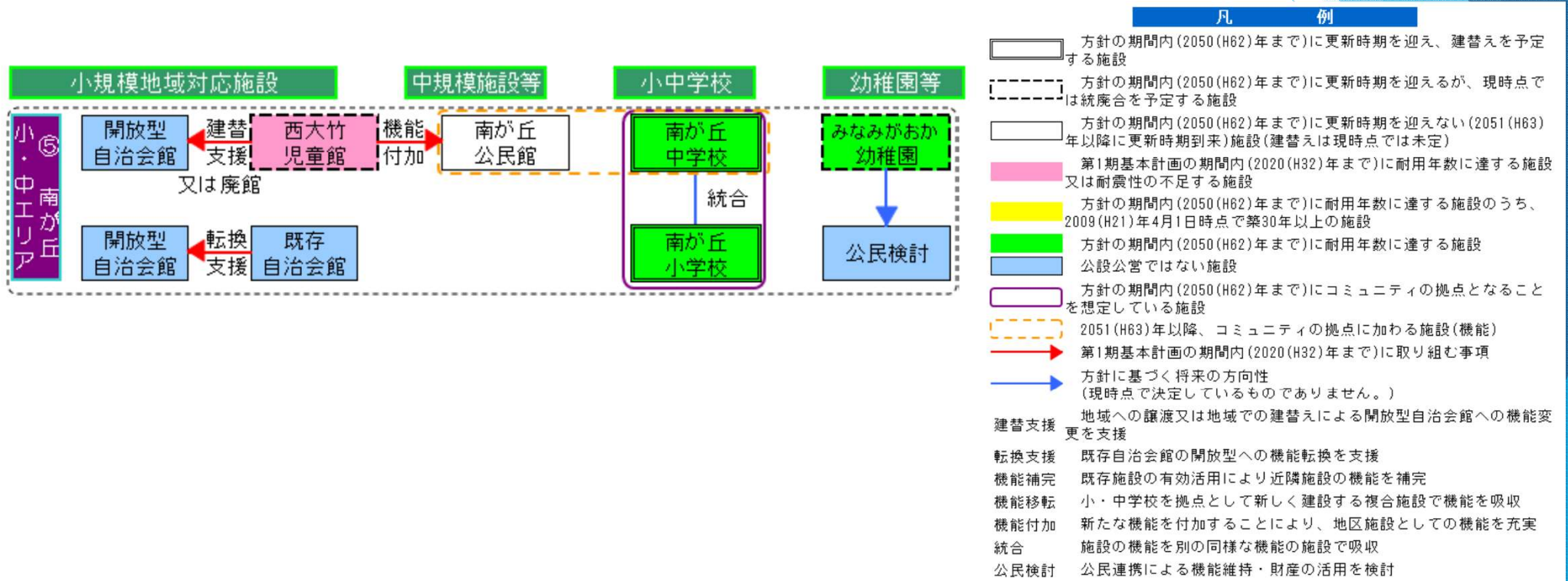
- ▶ 渋沢中学校区の主な公共施設の建替え予定年度を見てみましょう。
- ▶ 施設の建替え時期が2030年代半ばから2040年代半ばに集中しています。
- ▶ 渋沢公民館の建替え時期は、他の施設よりも遅い2055年となっています。



円の大きさは、建物の大きさを、グラフ内の文字は、施設名と現在の延べ床面積を示しています。また、木造30年、鉄骨造45年、鉄筋コンクリート造60年で建替えと仮定し、すでに建替え時期を迎えている建物は、すべてを2020年に示しました。

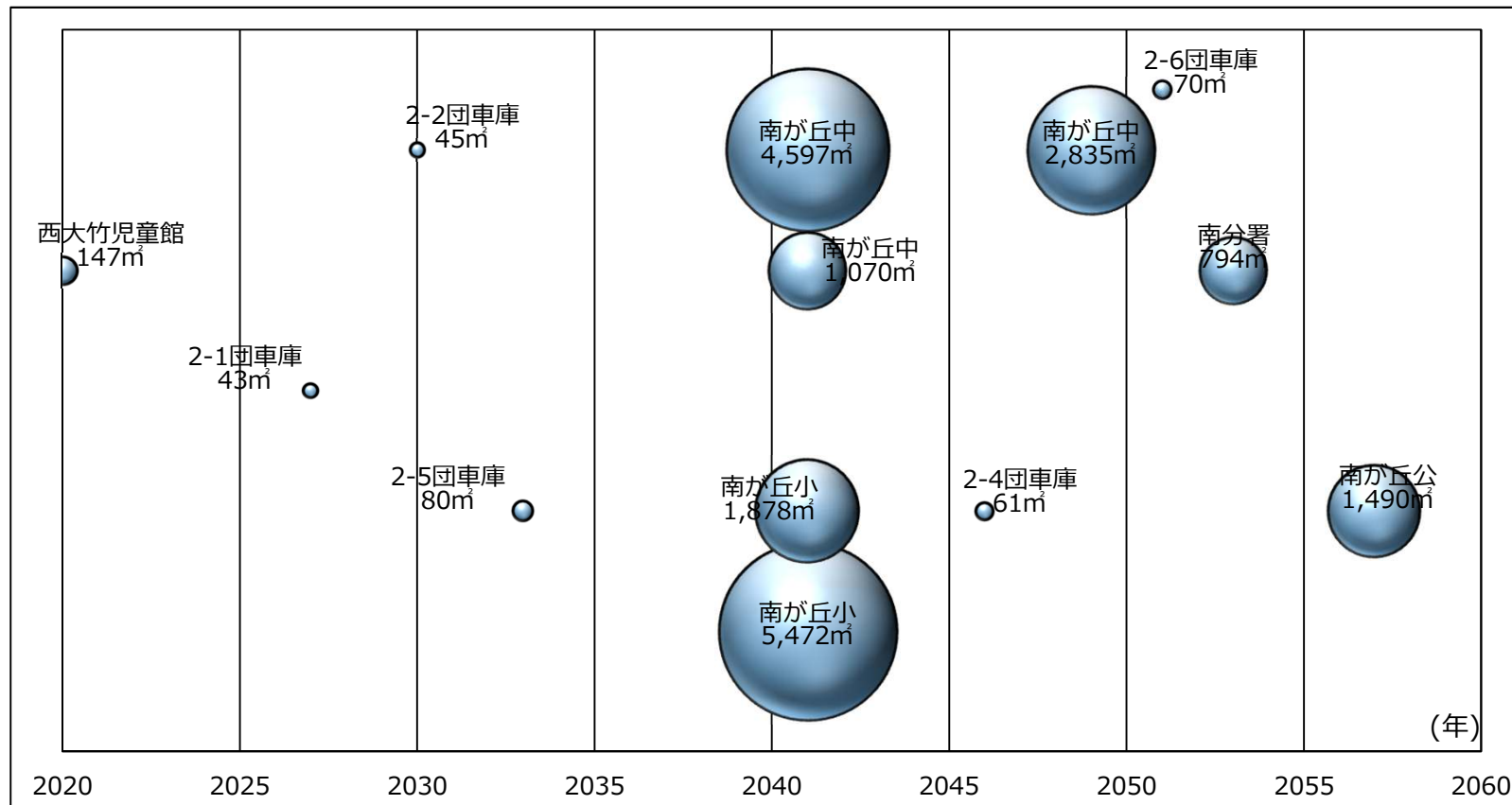
南が丘中学校区① -10年前に策定したイメージから-

- ▶ 現在の再配置計画で示している集約化のイメージを見てみましょう。
- ▶ 一体化した小中学校と南が丘公民館が地域の拠点として想定されていました。
- ▶ 小規模地域施設は中規模施設での機能補完や開放型自治会館への移行が想定されていました。



南が丘中学校区②

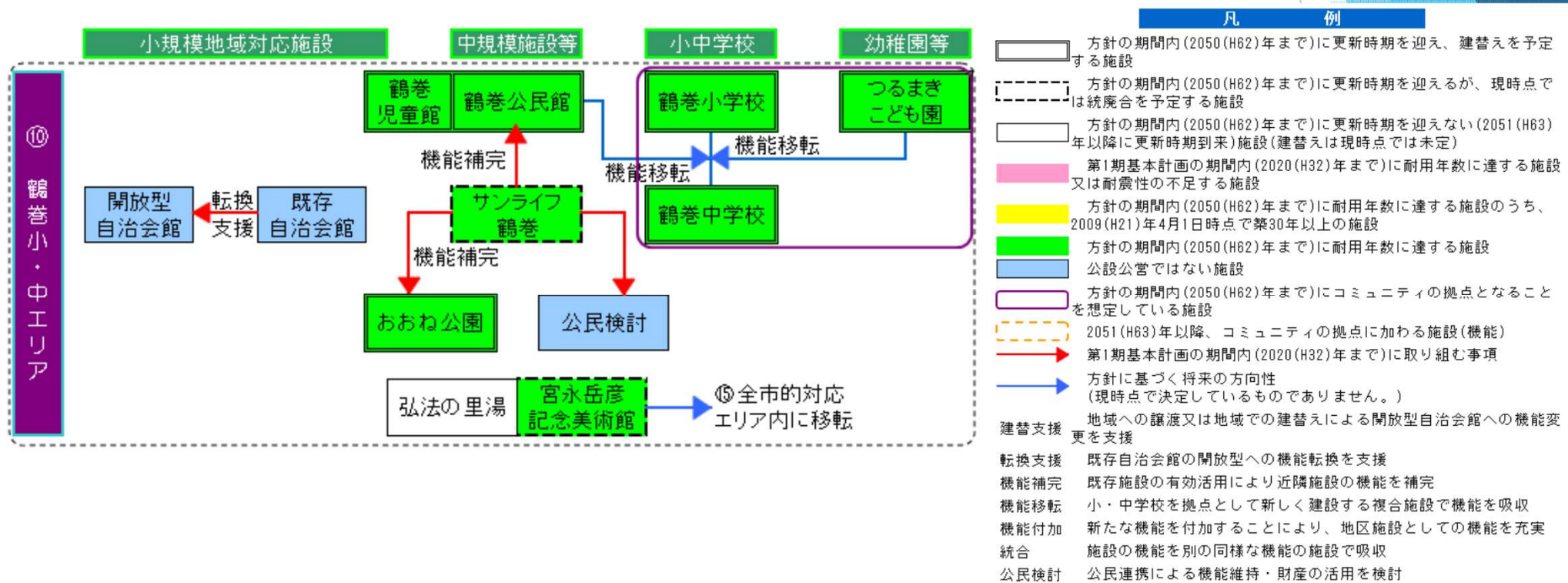
- ▶ 南が丘中学校区の主な公共施設の建替え予定年度を見てみましょう。
- ▶ 施設の建替え時期が2040年前半に集中しています。
- ▶ 南が丘公民館の建替え時期は、他の施設よりも遅い2057年となっています。



円の大きさは、建物の大きさを、グラフ内の文字は、施設名と現在の延べ床面積を示しています。また、木造30年、鉄骨造45年、鉄筋コンクリート造60年で建替えと仮定し、すでに建替え時期を迎えている建物は、すべてを2020年に示しました。

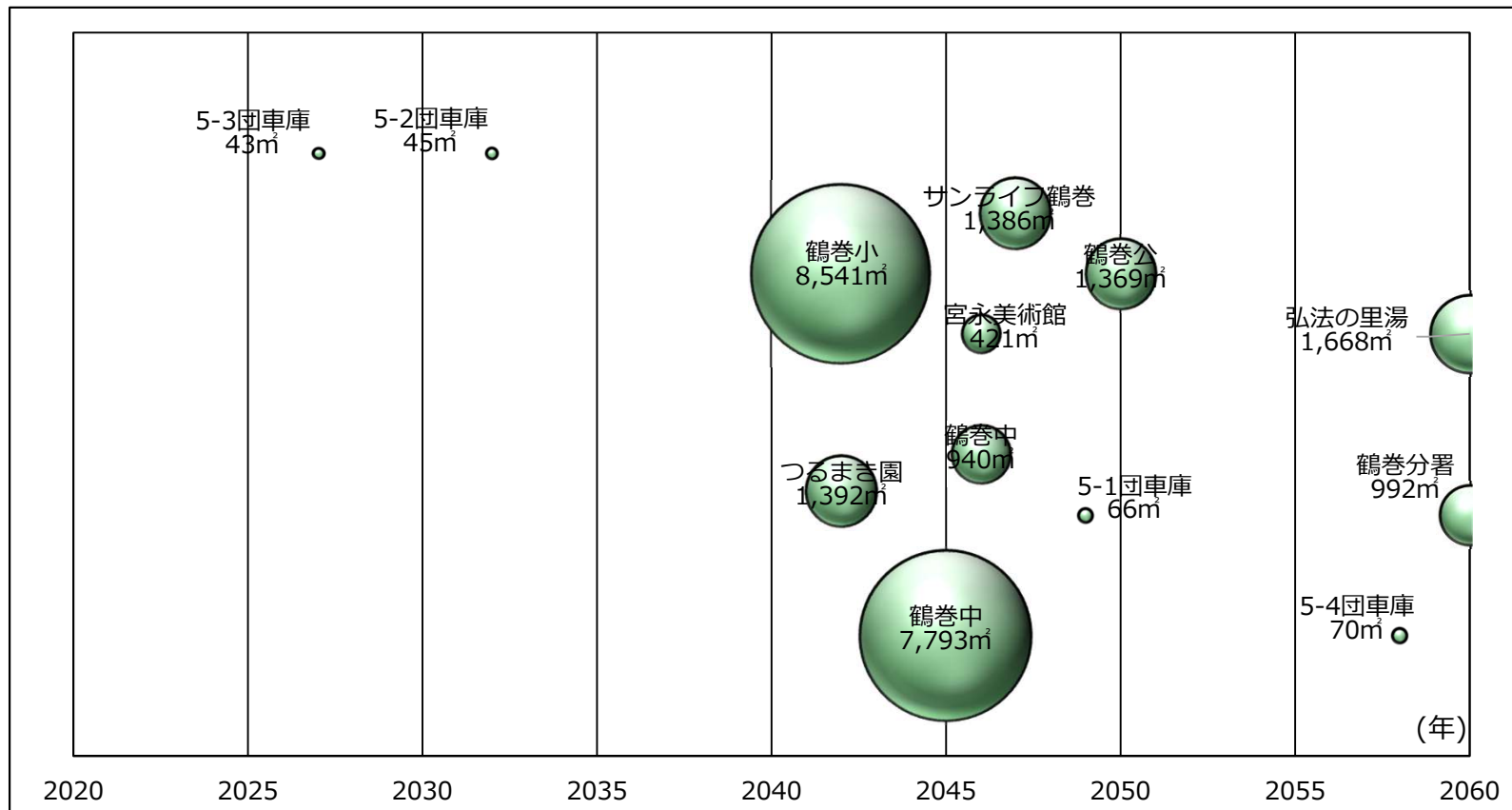
鶴巻中学校区① -10年前に策定したイメージから-

- ▶ 現在の再配置計画で示している集約化のイメージを見てみましょう。
- ▶ 小中学校が一体化し、さらに子育て機能と公民館の一部の機能を複合化した施設が地域の拠点として想定されていました。
- ▶ サンライフ鶴巻は鶴巻公民館とおおね公園で機能を補完し、公民連携の検討を行うことが想定されていました。



鶴巻中学校区②

- ▶ 鶴巻中学校区の主な公共施設の建替え予定年度を見てみましょう。
- ▶ 施設の建替え時期が2040年代に集中しています。
- ▶ 弘法の里湯、鶴巻分署の建替え時期は、他の施設よりも遅い2060年代となっています。



円の大きさは、建物の大きさを、グラフ内の文字は、施設名と現在の延べ床面積を示しています。また、木造30年、鉄骨造45年、鉄筋コンクリート造60年で建替えと仮定し、すでに建替え時期を迎えている建物は、すべてを2020年に示しました。

新たな再配置計画の策定

- ▶ 現在は今年度までの計画期間中であることはすでにお伝えしました。
- ▶ 次の計画では、長期的な視点による削減目標の再設定のほか、先ほど説明した児童生徒数・クラス数の推移や施設の耐用年数、地区ごとの課題を考慮して、**小中学校の一体化とその他の施設の複合化について、改めて方向性を示す予定です。**
- ▶ 「第2期基本計画」としての計画期間は、令和3(2021)年度から令和12(2030)年度までの10年間を予定しています。
- ▶ その10年間を前半後半に分け、令和3(2021)年度から令和7(2025)年度までの5年間の実行計画として策定するのが「前期実行プラン」となります。
- ▶ 5年後には**複合化の方向性も含めて内容を見直し**、「後期実行プラン」を策定する予定です。
- ▶ このフォーラムを通じていただいたご意見は、「前期実行プラン」だけでなく、「後期実行プラン」の参考とさせていただきます。
- ▶ **新たな計画の策定を通して、秦野市の将来について、みなさまと一緒に考えたいと思っています。**



最後に

- ▶ 秦野市の公共施設の取り組みについては、市ホームページで全ての情報を公開していますので、機会がありましたらご覧ください。

秦野市 公共施設の再配置 で検索

- ▶ 右下のQRコードで、この資料に解説をつけた動画を公開しています。本日のフォーラム終了後も、公共施設の複合化等に関するを中心にご意見をお寄せください。
- ▶ ご意見につきましては、メールでも、ファックスでも、お手紙でも構いません。
- ▶ **受付期間は11月13日(金)まで**とさせていただきます。
- ▶ フォーラムで伝えきれなかったことなどがありましたら、ぜひお知らせください。
- ▶ 公共施設再配置計画やこのフォーラムの内容について、ご希望があれば地域の団体などに**直接伺ってお話をさせていただきます**。お気軽にお問い合わせください。

公共施設再配置
の取り組み
QRコード



《この資料のほか、公共施設の再配置に関する問い合わせ先》

秦野市政策部行政経営課公共施設マネジメント担当

〒257-8501 秦野市桜町一丁目3番2号
Tel0463-82-5102【直通】 Fax0463-84-5235
mail:keiei@city.hadano.kanagawa.jp

動画のQRコード

